

# 実行機能と心の理解に及ぼすメディアの影響： 平成 21 年度川崎市筆記調査結果の報告

子安 増生・郷式 徹

## 1. 目 的

メディア視聴が子どもの社会性の発達にどのような影響を及ぼしているかを検討するため小集団で実施する筆記調査を川崎市で行った。調査内容として、実行機能（executive function）のうち抑制機能を調べるカラートレイル検査（Color Trail Test；CTT）、および、絵本形式の冊子を用いて筆記式で回答を求める「心の理解」課題 5 問を実施した。

## 2. 方 法

対象者：“子どもに良い放送”プロジェクトに登録されている子どもたちのうち、男児 185 人、女児 189 人、計 374 人（1 年生 245 人、2 年生 129 人）に小集団で実施した。

調査内容：A4 判 24 ページの冊子形式の調査用紙を印刷して用意した。カラートレイル検査（CTT）2 問と「心の理解」に関する課題 5 問から構成された。

## 3. 分 析

カラートレイル検査では色を交代しながら数字を結んでいかなければならないパート 2 でのみ 2 年生のほうが 1 年生よりも成績が良かった。

「心の理解」課題では、「アイスクリーム屋さんはどこ？」の現実質問と完全正答で女児でのみ学年差が見られた。また、「なにがもんだい」の質問 1 と完全正答では、男児のみ学年差が見られた。「心の理解」の 5 課題間には一部に有意な相関が見られたが、その値は 0.1 ～ 0.2 の弱いものである。カラートレイル検査と心の理解課題間には部分的に弱い相関（0.1 ～ 0.2 程度）が見られただけであった。

メディアとの接触の影響を検討した結果、カラートレイル検査の葛藤（指標）と大人の関与のない状態でメディアに接触しているメディア指標の間で 0.1 未満の弱い相関が見られた。心の理解課題では、男児でのみテレビ接触量が増えるほどアイスクリーム課題（完全正答）の正答率がわずかに減少するという結果が得られた。

## 4. 結 論

2 年生と 1 年生の実際の年齢差はわずか（2002 年 2 ～ 3 月生まれと 4 ～ 7 月生まれの差）であるにもかかわらず、いくつかの課題で学年差が見られたことから、学校教育の影響の大きさが示された。また、一部の心の理解課題のようにストーリー中で明示されていない状況の理解が求められる課題における女児の優位性が示された。これまでの本プロジェクトの調査結果では、幼児期の前期において、描画の発達に対して過度のビデオ視聴が阻害的に働くことを見出したが、今回の調査ではビデオ視聴の影響は特に見られず、一部にテレビ視聴の影響が見られたが、それらごく軽微なものであった。